Citizens No.4 for Habitat Fukuoka
ハビタット福岡市民の会

市民の会通信　第５号
2000年９月６日　発行
ハビタット福岡市民の会

アジア都市開発戦略福岡会議2000

目次

ｱｼﾞｱ都市開発戦略会議2000　1
市民の会1年半をふりかえって 2
ショーン・マッカーシーさんへ
　　インタビュー　2
市民の会活動報告　3
おしらせ・行事案内　4
入会のご案内　4

７月１１日から１３日にかけて、国連人間居住センター（ﾊﾋﾞﾀｯﾄ）福岡事務所主催の国際会議･ｱｼﾞｱ都市開発戦略福岡会議がアクロス福岡内で開催されました。これは福岡市・県・建設省・日本開発銀行・世界銀行との共催によるもので、ハビタット福岡事務所初の最大規模の国際会議となりました。

参加国はバングラデシュ、ブラジル、カンボジア、インド、インドネシア、ネパール、モンゴル、パキスタン、フィリピン、タイ、スリランカ、ベトナム、中国で、各国の市長・大臣・そしてこのプロジェクトに関わっている国連開発計画の職員･地域大学の教授の来賓の方々が１０日から１１日にかけて福岡入りしました。

会議のテーマは「アジアにおける都市開発戦略の促進・ハビタットの活動の促進」「経済的開発と都市の貧困・NGO（非政府組織）」「地域政府ネットワーク・私営企業との共同作業」で、会議の中では現在進行中のハビタットが関わるアジア都市開発計画の進行過程の報告や、それぞれの地域における計画の有効性・難点等の意見交換、次の計画参加地域へのアドバイス、さらなる支援が必要となる地域の特定、そして計画に関わる協力・援助組織の相互信頼関係の強化についての話し合いが行われました。

この会議を通して各国参加者がそれぞれの地域で行われている都市開発計画の進行具合を確かめると共に、問題や解決策への理解を深め、成功の内に会議の幕は閉じられました。

Reported by Noriko Noguchi

アジア都市開発戦略福岡会議2000のレセプションには、市民の会から夏岩さんと松田が参加させていただきました。会議の主催者側の世界銀行の都市部局のディレクターである John Flora 氏に、今回の会議の意義とハビタットの役割についてインタビューしました。

John Flora 氏は、「こうしたアジアの都市の開発責任者と開発支援をする組織が交流する機会はとても重要です。特に今回はハビタット福岡事務所がなければ、こうした会議は成功しなかったでしょう。ハビタットが福岡にあるからこそ、開催できた会議ですし、人的な交流を通して、より効果的なプロジェクトの推進を話し合うことができるでしょう。」と話されました。これまでのようにハード重視の開発から、コミュニティ育成といったソフト志向の開発へと変化してきていることから、ハビタット福岡事務所の役割はますます重要になっていくと思います。

レセプション会場でお会いした福岡市の山崎市長からは、「ハビタットの応援団長が来ているね」と言われたり、福岡県の麻生知事からもいつものとおり、「市民の会」への励ましの言葉をいただきましたよ。

Reported by Miyuki Matsuda

市民の会の定例会
毎月1回
9月21日（木）（予定）
10月19日（木）（予定）
19:00～21:00
初めての方は18:30からのオリエンテーションへ参加してください。

場所：ハビタット福岡事務所

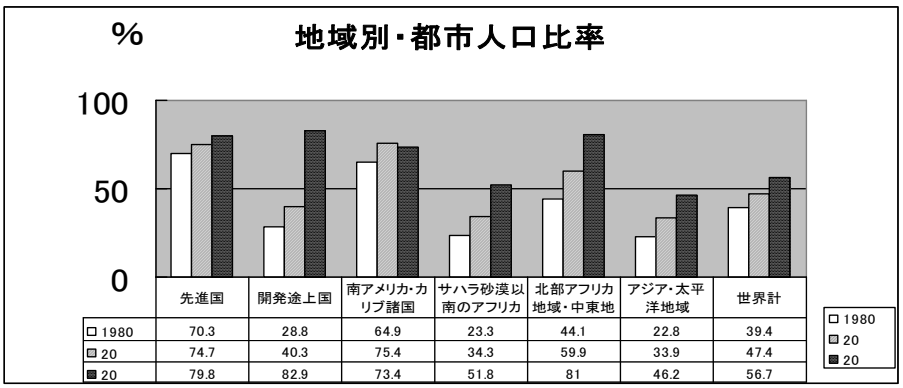
市民の会活動報告

小冊子「都市問題入門（仮題）」編集中！

昨年から今年にかけて、勉強会にて翻訳、発表してきた“Basic Facts on Urbanization”の日本語版として、小冊子「都市問題入門（仮題）」を発行予定です。作成にあたっては、翻訳担当、それをもとに内容をつめる担当など、のべ１３名が関わっています。私たちは、作成にあたって協議をすすめるなかで、途上国が直面する都市化の問題を学び、大変勉強になりました。また、一人で冊子を作成するよりも、人と協議しながら作成することで学んだことは大きいと思います。

２１世紀にむけて、人類が直面する最も重要な問題は、開発途上国における都市人口の急激な増加です（図参照）。この増加によって都市には、住居・ホームレス・環境破壊・犯罪・暴力・貧困問題など、多くの問題を抱えている現状があります。まずは国々の現状を知ること、これがハビタットの活動を理解する上で大切なことだと思います。この「都市問題入門（仮題）」が、その一役を担うことになればと願っています。

冊子作成リーダー　徳永　理美



	先進国	開発途上国	南アメリカ・カリブ諸国	サハラ砂漠以南のアフリカ	北部アフリカ地域・中東地	アジア・太平洋地域	世界計
1980	70.3	28.8	64.9	23.3	44.1	22.8	39.4
20	74.7	40.3	75.4	34.3	59.9	33.9	47.4
20	79.8	82.9	73.4	51.8	81	46.2	56.7

Basic Facts on Urbanization より

～冊子作りに参加して～

ただいま小冊子「都市問題入門（仮題）」の日本語版編集に、携わらせてもらっています。具体的には、英文を綿密に日本語訳されたものを、わかりやすく書き直すという作業です。私の場合、まず翻訳されたものを何回も読むことから始まるのですが、そこには知らなかった途上国の現状がいろいろと書かれてありました。都市化に伴い、多くの人たちが劣悪な条件の住居に住まざるをえないという実態を私はよく知りませんでした。

そんな折り、私はタイのバンコクへ旅行することになりました。観光して、もちろん楽しかったし素晴らしかったのですが、ふと民家の方へ目を向けてみると小冊子で勉強した通りの現実がありました。観光客が利用する船着場を住まいとして生活している家族がいたり、川の畔に壊れそうな家屋が建っており、そこにたくさんの人たちが住んでいたり。このような現実を目の当たりにして、私はとても考えさせられました。

小冊子で勉強していなかったら、大切なことに何も気づかずに、ただ楽しいだけでタイを素通りしていたと思います。いろいろなことを考えるきっかけになった小冊子は近々刊行の予定です。メンバーがそれぞれ頑張っています。ご期待下さい。

白石玲子

“Cities and Homes for All：The Habitat Agenda”翻訳中！

1996 年 6 月にイスタンブールで行われた第二回国連人間居住会議「ハビタットⅡ」において採択された「ハビタット・アジェンダ（地球行動計画）」を簡略化し、より分かりやすく、読みやすくされた冊子が”Cities and Homes for All：The Habitat Agenda”です。担当者を決め翻訳し、9 月の勉強会より発表していきます。

市民の会発足以来１年半を振り返って

ハビタット福岡市民の会は昨年２月発足以来、会に参加された方は１５０名を越え、毎月着々とメンバーを増やしてきました。毎月の定例会・勉強会・交流会の他、去年１０月の世界ハビタットデーには、市民の会主催で“市民フォーラム―国連ハビタットってなんだろう？”をアクロス福岡にて開催しました。また、今年の２月には新聞で公募した参加希望者も含めた１０名でミャンマー、カンボジアへのスタディツアーも実施しています。さらに、ハビタット福岡事務所が主催する関連イベントのときには、準備や当日のお手伝いなどを通じて、世界の人間居住の問題について専門家の方々と交流する機会にも恵まれています。

誰にも関わりのある「人間居住」のテーマは、住環境のことだけでなく、保健・医療・教育・雇用といった地域社会のインフラの問題、さらには各国や地域の平和の問題まで幅広いので、さまざまな関心を持ったメンバーがハビタットを通して、福岡から世界とつながっています。

これからはメンバーの定着と活動内容の充実に力を入れていきたいと考えています。

事務局長　因　利嘉子

国連人間居住アドバイザー

ショーン・マッカーシーさんにインタビュー

今回はハビタット福岡事務所の中でも、さまざまな国での活動経験豊富なショーン・マッカーシーさんにインタビュー。明後日にはインドネシアに出張と言う多忙な中ユーモアたっぷりな話し振りについつい引き込まれて話し込んでしまいました。今回は彼の多彩な活動歴に焦点を絞り，彼の人柄に迫ってみましょう。

建設関係の会社員として働いていたショーンさんは、１９６０年代後半、人々のためになる活動に身を投じてみたいと言う思いを胸にアフリカのセネガルとレストゥ（南アフリカの小国）での国際ボランティア活動に飛び込みます。

そして２年間の無償ボランティアとして活動後、レストゥで民間エンジニアとして活動を始められます。ここでは会社員時代の経験を生かし病院や大学，小中学校の建設に２０年間没頭。その後ハビタットと世界銀行の共同プロジェクトであるネパールでの震災再建活動に従事されます。ここでは予算組みから実際に建設する建物の設計まで総合的に手がけられました。

その後２，３ヶ月の単位で多くの国での短期プロジェクトを手がけられた後ソマリアに飛び，内戦後の再建活動に従事されます。多くの命が犠牲になり、建物のほとんどが破壊され尽くされたばかりか，政府そのものも機能できないほどの国家的壊滅状態の中でまずショーンさん達が行ったのは｢政府を作る｣ということでした。部族ごとの中で話し合いを重ねと投票を繰り返していって民主的なコミュニティー更には政府組織を全くのゼロの状態からを作っていかれたそうです。

そして１９９８年から今年の５月までミャンマーで上水道，公衆衛生の整備に関わられ，１９９５年には 60%だった安全な飲用水の供給率が 80%に近づいているそうです。ここではミャンマーの軍事政府との取り決めで定期的に外国人職員を交換させられ，ショーンさんも期間切れで日本に「一時帰国」を余儀なくされたとのことでした。

多くの国での活動を経られた中で最も困難だったプロジェクトはと言う質問には、「国ごとに抱えている問題も政府との関係や環境も違い一概には比べられず、どのプロジェクトも困難な問題を抱えていた」しかし，33 年前「平和的にポジティブな方法で世界の人々と共生していく道を探したい」と言う思いひとつを抱いてこのお仕事に飛びこまれ邁進しつづけてこられた今、最後に市民の会にメッセージをとお願いすると、今までの質問の中で一番難しいと言った表情で一言一言言葉を確かめるように次のように語られました。「本から学ぶことでは決してできないリアルライフが活動の中にはあった。派遣先の国々では教える立場であった自分も現地の人々に世代を超えて民族部族のことを伝えていくこと，協力すること、生き抜くことの大切さを教わった」と。

短いインタビューの間にも彼の温かい人柄が窺い知れ，この人柄があってこそさまざまな国々での困難な問題にも現地の人々の信頼を得て、友好的な協力関係を持つことができたのだろうと深く納得させられました。個人的には，レストゥで看護婦だった現地の方とのご結婚にいたるロマンスを語ってくださったときの少しはにかんだような表情がとても印象的でした。また 9 月上旬には福岡事務所に戻ってこられるそうなので、そのときには，また皆さんもお話を伺ってみてはいかがでしょうか。

Reported by Tomomi Enda

行事報告 ・ おしらせ

世界ハビタット・デー2000 福岡

毎年 10 月の第 1 月曜日は、国連総会によって「世界ハビタット・デー」と定められています。この日には、世界中の国、地方自治体、コミュニティが記念行事を開催し、「人間居住環境」の重要性を強調する機会としています。今年のテーマは“Women in Urban Governance（まちづくりと女性の参画)”です。

ここ福岡においても、ハビタット福岡市民の会が国連人間居住センター（ハビタット）福岡事務所とともに、行政における女性の役割について考えるイベントを実施します。

皆様のご参加お待ちしております。参加ご希望の方は、参加希望イベント名、参加者名、人数、連絡先（住所、電話、FAX、電子メールなど）をご記入の上、ハビタット福岡事務所に FAX か電子メールでお申し込みください。申し込み締め切りは 9 月 20 日です。

●公開シンポジウム 「まちづくりと女性の参画」
基調講演(芦屋市長 北村春江さん)とパネルディスカッション
日時 10 月 1 日（日） 13:15～16:30 会場 アミカス 4 階ホール

●市民フォーラム 「家族で学ぶ国連とハビタット」
クイズ、ゲームを通じて、国連やハビタットの活動について楽しく理解を深めます。小中学校のお子さんをお持ちの方やお知り合いにぜひ参加をおすすめください。
日時 10 月 1 日（日） 10:00～12:00 会場 アクロス 7 階 大会議室
対象 小学校高学年から中学生とその家族

●パネル展
ハビタットの居住環境改善プロジェクトにおいて、コミュニティの女性が果たす重要な役割をパネルでご紹介します。
日時・会場
・10 月 7 日～22 日 アミカス展示コーナー(まつりアミカス)
・10 月 7 日・8 日 日比谷公園（国際協力フェスティバル 2000）
・10 月 14 日･15 日 ソラリアプラザ ゼフ（地球市民どんたく）
・11 月 26 日･27 日 あすばる 1 階フロア（あすばるフェスタ）

ハビタット福岡市民の会事務局

〒810－0001
福岡市中央区天神1－1－1アクロス福岡8F
国連人間居住センター福岡事務所内

電話:092(724)7121／23
FAX:092(724)7124
Email:cnhf@gol.com

ホームページもご覧ください
http://www.fukuoka.unchs.org

ホームページでは定例会･勉強会の報告や運営委員会の議事録も掲載しています。ゲストブックにメッセージをお送りください。

〈入会のお申し込み〉

気軽に勉強会や定例会へご参加ください。福岡県外の方も大歓迎です。入会希望の方はお名前とニューズレターの送付先をハガキ、FAX、Email でお知らせの上、年会費 1,000 円をお近くの郵便局でお振り込みください。

口座:ハビタット福岡市民の会
01730－0－78434

ハビタットスタディー・ツアーの企画・運営をする方募集中！

第 2 回目はネパールを予定。スタディー・ツアーに企画から携わってみませんか？
ツアー参加者も同時募集中。

とぴっくす

● 「お帰りなさい」
以前ハビタット福岡事務所でインターンとして活動されており、市民の会立ち上げにご尽力下さった芦塚智子さんが 8 月に一時帰国され、2 週間の滞在後ワシントンへと戻られました。

● 「留学ラッシュ！！」
市民の会メンバーの広渡紀美代さんと下越志延さんが 8 月中旬から米国へ留学されました。また、留学より一時帰国し、インターンとして活躍してあった吉川さんが米国へと戻られました。

編集後記

今年も世界ハビタット・デーの季節がやってきました。市民の会からは２回目の参加となりますね。アジアの居住の様子、そしてハビタットの活動について知るとっても良い機会であり、いろんな方と出会える場でもあります。今年はどんなイベントになるか楽しみです。

ニュースレターグループ